

6/19

革新

1969. 6. 19

全国革新クルーを会議
市大支部機関紙

6.20立法粉碎全市大統一行動

6.23立法粉碎全関西総決起(3じ大手前公園)

反安保府民集会(6じ中之島)に決起し

7.1文部省包囲示威へ進撃せよ!

六、一八ハ昨日の学内集会を批判的に総括し、六、二〇立法粉碎全市大統一行動へ御堂筋デモに決起せよ!

昨日、工学部において、三〇名の学生、教職員参加のもとで、六、二〇立法粉碎御堂筋デモにむけての学内集会が行なわれた。それは、十四日の教授会連合デモに対する一定の批判的立場にたった部分によって、もたらしたものであり、又、スローガンにおいても、「立法粉碎」「中教審を申粉砕」「文部省官通連掃倒」に加えて、「国大協自主規制路線粉碎」「教授会自治粉碎」といった積極的内容があった。二つにおいて、評価できるものであった。しかしながら、二の集会に結集した部分においても、課題の一致にもついた幅広い統一戦線をしといった単なる幅広いスムの立場や、「大学自治を守る」といった消極的な立場が存在したことを一瞥すると認識する必要がある。我々は、こうして、立法粉碎といった形で自然発生的に結集してきた部分を排除するのではなく、国大協自主規制路線の基盤そのものを解体していき、大学の左からの再編をなすべく、二つ、即ち、市大斗争を主体的に任じていくこと、つまり、佐藤打倒、文部省解体へとつまずきすんでいく斗争を行なうこそ、真に、大学立法を粉碎していくことができるのだということを認識させ、大学斗争を主体的に任じていく部隊へと、目的意識的に高めていく必要があると考える。こうした場合において、六、二〇市大統一行動は、その一歩として位置づけることができるであろう。我々は、全学反六、二〇統一行動に、市大斗争を主体的に任じていく決意をもって、参加することを呼びかける!!

六、一八、一六、一五の成果をふりよえ、六、二二三大学立法粉碎全関西集会(三時、大手前公園)反安保府民集会(六時、中之島)に決起し、七、一文部省包囲示威へとつぎ、進め!!

六二年、政府の直接的な大学支配を意図する大増法が発表になって以降、それになれるものとして、藩府制を基盤とした教授会が自主規制しとよく所謂、国大協自主規制路線が敷かれた。それは、必然的に、大学が、政府に対する批判の立場を放棄し、直接的、あるいは間接的に御堂筋と仲着した、まさに腐敗しきった学問、研究を擁護するものへと陥落する二とをまねいた。そして、二の政府、独占と仲着した大学を、最終的に「完成させるべく、中教審、大学立法が提出されたのである。